

ボイコット・アマゾン

アマゾン・ドット・コムは、そのインターネット上の店舗で提供しているワン・クリック・ショッピングというサービスについてビジネス・モデル特許を取得し、これに基づいて、1999年10月、同様のサービスを行っているバーズ&ノーブルに対し、サービス提供停止を求める訴訟を起こした。ワン・クリック・ショッピングとは、ユーザがあらかじめ届け先や支払い方法などの必要な情報を登録しておけば、アマゾンのサイトで物品を購入する際に、特定のボタンをマウスで1回クリックするだけで注文処理が完了するというしくみである。

これに対して猛然と異議を唱えたのが高名なプログラマーであり、フリー・ソフトウェアの社会的な効用を主張するストールマン (R. M. Stallman) である。彼の意見によれば、アマゾンがクッキー技術を利用したこの単純で重要なアイデアを独占しようとするのは、WWW や EC 全般への攻撃であり、アマゾンが他のウェブサイトを脅したり制限したりすることをやめると約束するまで、インターネット・ユーザーはアマゾンからの物品の購入を取りやめるべきである (<http://www.gnu.org/philosophy/amazon.html>)。

アマゾンのビジネス・モデル特許取得の正当性は、ネット・ビジネス成功の鍵が、技術をどのように利用して顧客に対するユニークなサービスを提供するのかということに関するアイデアにあり、そうしたアイデアにこそ経済的価値が認められるべきであって、それによって経済の健全な発展がはかられる、という点に見出すことができるであろう。その一方で、ストールマンが述べているように、技術利用に関する一般的アイデアを特定の企業が独占しようとするのは、サイバースペースという、創意工夫に富むハッカーの自由な発想と無償の相互協力で出来上がってきた空間での活動の自由を侵害するものであり、ひいては人間の自由な思考や創造性を抑圧するものであるかもしれない。このように、この問題状況には重大な価値の対立が存在しているのである。

なお、この訴訟については2002年3月に和解が成立した。一方、アマゾン創業者のジェフ・ベゾスは、2000年3月にアマゾンが取得しているものも含めて「特許権の制限」を提案している。

©2003 by Kiyoshi Murata

This case may be quoted or published without permission as long as it is not changed in any way and it carries the copyright notice.

ケース・メソッドのための質問

1. アマゾンのビジネス・モデル特許の取得はどのような価値に照らし合わせて正当化できると考えられますか。

2. ストールマンが主張している「ハッカーの倫理」は一般に正当化できるものと考えられますか。

3. あなたがアマゾンの CEO であるとした場合、こうしたボイコット運動に対してどのような対応をしますか。